

いも、食器洗い機を使えば指一本です。近い未来は車の運転でさえ、自動運転で指一本だそうです。これだけ便利になり、家事が楽になったのに、家事や育児の辛さから悩み苦しむ若いお母さんが後を絶ちません。

私達、お道の人間は、親神様が人間の陽気ぐらしを見て共に楽しもうと、人間をお創り

なつたと聞かせて頂いております。私達は文明が発達するほど、陽気ぐらしから遠ざかっている気がします。便利で豊かな世の中、私達人間の望んだ暮らしのはずなのに陽気とは真逆のニユースをよく目にするのはなぜなのでしょう。何が原因なのでしょうか？

教祖のひながたには、中山家が貧のどん底の暮らしをさされている中、こかん様が「お母さん、もう食べる物がありません」というと教祖は「世界には、枕もとに食物を山ほど積んでも、食べるに食べられず、水も喉を越さんと言うて苦しんでいる人もある。そのことを思えば、わしらは結構や、水を飲めば水の味がする。」と仰いました。私達の

中で、明日食べるものが無いという人がいるでしょうか？

教祖は、どんな苦しい中でも喜んで通る事を教えて下さいました。感謝して通る事を教えて下さいました。物があから感謝できるのでしょ

謝が来るのです。天理教教典の中に、「身の内の自由がかなうのも、難儀不自由をかこつのも、銘々の心遣い一つによつて定る。それを、心一つが我の理と教えられる。しかるに、人は、容易にこの理が治らないままに、あさはかな人間心から、何事も自分の勝手になるものと思

の年まで元気に通らせて頂いているのは、本当にありがたいと思います。元気な時は何気なく使っているのに、病気になるってから、感謝する始末であります。身上を頂いてからお詫び申し上げる次第です。

けという約束で預かった方でした。1週間の約束が8年うちの教会にいました。彼女は教会に来た当時、大変不足が多い人でした、少し注意すると部屋にすぐ帰ったり、なにかを頼むと本当に嫌そうな顔で作業します。ですが、段々と変わってきて、一昨年うちで預かった年配の信者さんの面倒を本当によく見てくれたりと、一生懸命やるようになります。最近では、教会が有難いと感謝して通っていました。その感謝の伏せこみが、神様に叶って御守護頂いたのではないのでしょうか。

教祖が、月日のやしろとなられてから、一番最初にされたのは、貧に落ち切る事でありました。当時中山家は大変裕福な一家でしたが、教祖は、家族や親類の反対も聞かず、その財産を片っ端から施してしまします。そして先ほどの話は、貧のどん底になった時のお話であります。私はここに、現代の問題のヒントがあるように思います。物があ

りまして、累を他に及ぼして、世の中の平和を乱すこともなるから、常によく反省して、絶えずほこりを払うようにと諭されている」と教えて頂いています。

私ごとであります。先月、左目の白内障の手術をいたしました。今月は右目の手術をします。白内障の手術は難しく、命の危険はないのですが、手術となると怖い思いがします。私は今まで病院にかかる機会が少なく、手術の経験もあまりないので、病院にかかると、改めて、こ

このよふのしんぢつのをや月日なり なにかよろづのしゆこするぞや 六―102 どのよふなむつかしきなるやまいでも しんぢつなるのいきでたすける 六―108 さて、2年後の令和3年8月29日はいよいよ、網走大教会創立10周年がござります。記念祭は何の為にやるのか、私はやはり感謝であると思

すぎると私たちはついつい感謝をしなくなってしまう。感謝が無くなると不足が多くなるのです。不足が多くなると、様々な心の埃を生み出します。その心の埃が知らず

積み重なり、自分たちを苦しめるのです。陽気ぐらしのキーワードは感謝、慎み、たすけあいです。一番最初に感

握ってという握ります。本当にありがたいことです。彼女は8年前、ある信者さんの紹介で、教会に1週間だ

初代会長様が、目が不自由な中、寒さ厳しい網走で、むしろをかけた小屋で、落ちてい